

ケイがシャーレにやってきた

先生。ちょっとお時間
よろしいですか

王女は貴方を信頼しているようですが
色々悪い噂の絶えない貴方のことを
私はまだ信用していません

誤解だ…？口ではそう言いながら王女に
劣情を抱き、変態的な行為を考えている
可能性だってあります

なので私自らあなたが王女にとって
危険ではないと証明するために監査を
行うことにしました

…？何を呆けた顔をしているんですか
ほら、つべこべ言わず仮眠室に来てください

うっ…なんですかこれは
この据えた匂い…はあ

こんなえっちな雄の匂いに
加えてカウパーまで…

はあ…くっさあ

こんな凶悪なものを王女に
向ける気だったなんて…
はあ…許せません…

ほら、処理するので早く横に
なってください

